

久慈・ふるさと体験だより

発行主体：（一社）久慈市ふるさと体験学習協会/久慈市

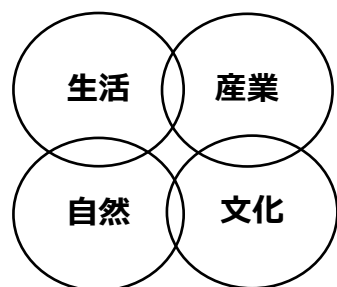
たっぷり
解説！！

～久慈市の教育旅行 こころの体験～

●**教育旅行とは**・・・教育上の目的で実施される旅行のこと。学校行事として行われる修学旅行、野外活動、宿泊学習、遠足なども含まれます。

●**久慈市の教育旅行こころの体験**・・・久慈市では豊かな自然を活用した自然体験、伝統的な生活文化体験、農山漁村体験や農林漁家等への民泊による心と心のふれあいを通じて、参加する児童生徒等の新たな発見（気づき）や感動する心、柔らかな感性や社会観を養い、「生きる力」を育む、「ほんもの」を体験し「こころの交流」を提供しています。毎年、仙台や首都圏、海外からも多くの方が訪れ、体験を通じて育まれる交流が大きな魅力となっています。中でも、一般の家庭に宿泊し田舎暮らしを体験する『民泊体験』は、人気の体験プログラムの1つです。

地域の資源を生かして
交流人口を拡大



地域の多様な資源



豊富な体験プログラム

●教育旅行の効果

児童・生徒への効果

- ・課題発見と新たな学びの機会
- ・協調性、信頼関係の構築
- ・他者への理解、社会観
- ・達成感、自尊心
- ・自然との向き合い方
- ・地域探究、キャリア教育、職場体験 など

地域への効果

- ・地元の魅力再発見
- ・地域住民の意識変化・意欲向上
- ・地域経済の活性化、所得向上
- ・地域コミュニティ活動の活性化
- ・第2のふるさと、市のPR など



『**生きる力**』



『**新たな気づき**』

地域の活力に発展

皆さんの「普段の生活」が、子どもたちの「貴重な体験」になります

民泊の魅力

民泊体験の魅力は、子どもたちとの交流です。仙台市や首都圏から来る子どもたちにとっては、私たちが当たり前と感じていること全てが新鮮です。私たちの暮らしに感動する姿を見て、私たち自身が自分たちの地域の良さに気付くこと、それが民泊体験の大きな魅力の一つです。



民泊体験とは

民泊体験は、普段の生活を体験いただくもので、特別なことをしていただく必要はありません。
宿泊サービスではありませんので、生徒たちをお客さんとしてではなく、「家族の一員」として迎えていただきます。
一緒に料理や配膳をしたり、掃除などのお手伝いをしたり、時には散歩をしたり、積極的にお話をし、こころとこころの交流をしていただきます。
当協会では安心・安全に民泊体験を行えるよう救命救急講習会、衛生管理講習会、意見交換会なども実施しております。また、民泊体験中は、市及び協会スタッフが24時間体制でサポートしております。

民泊のスケジュール（一例）

民泊1日目

16:00頃 バスで1軒ずつ送迎され生徒が到着。玄関で生徒を出迎えます。
以 降 民泊体験開始。お手伝いをしてもらいながら、一緒に夕食の準備、食事、片付けをします。



民泊2日目

朝(適宜) 朝食もお手伝いしてもらいながら一緒に準備します。
8:00頃 バスが1軒ずつ迎えにきます。玄関先であいさつをしてお別れです。

民泊体験を通じ貴重な出会い

【民泊家庭に届いた生徒からのお手紙より仙台市中学生】

お父さん、お母さん、お元気ですか？
ふとした時にお父さんとお母さんの顔が思い浮かんで戻りたいなあと心の底から思います。こうしてお手紙を書いている今も、涙をこらえるのに必死です。今朝、久しぶりに自分の家で朝食をとったときも、バナナと野菜ジュースだけで、なんだかとても悲しいような、なんともいえない気持ちになりました。
お父さんとお母さんの家を出てから行った安比のホテルも立派だったけど、やっぱり温かいお父さん、お母さんのお迎えが待っているお家のほうが、私は大好きだと改めて感じました。きっと修学旅行がなければ出会うこともなかったお父さん、お母さんに巡り合えて本当に幸せでした。こんなにたくさんの幸せを分けてくださって、本当にありがとうございました。

民泊受入れをしてみませんか ― 民泊受入地域募集中 ―

久慈市では、宮城県仙台市や首都圏などからの教育旅行(野外活動、修学旅行など)の受入れを積極的に行っています。

教育旅行では、日中はグループに分かれ、自然体験、産業体験、伝統文化体験などを体験するほか、一般の家庭に宿泊し田舎暮らしを体験する『民泊体験』を行っています。

(※令和2～3年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から民泊受入を中止)

現在、民泊の受入れの多くは、山形町と侍浜町の2地域約80軒のご家庭に協力をいただき行っており、久慈市のファンを増やすためにも今後は受入範囲を拡大していく予定です。教育旅行の受入れを行っていくためにも多くのご家庭のご参加・ご協力が必要です。



わたし達と一緒に
久慈市の魅力を伝えましょう!!

民泊についてのよくある質問

Q 民泊には、どんな生徒が来ているの？

A 仙台市や首都圏からの中学生がほとんどです。

Q 何人くらい受け入れるの？

A 4～6名程度を予定しています。また必ず毎回受入れなければならないものではありません。

Q 受入れはボランティアで行うの？

A いいえ。参加いただいたご家庭には、民泊体験料として生徒1人につき5,500円程度をお支払いしています。

Q 特別な食事は料理できませんが大丈夫ですか？

A 全く問題ありません。魚の煮つけ、煮しめ、おひたし、漬け物など、普段の食事をご提供いただくだけで結構です。



◀民泊受入では食事子どもたちと一緒に準備します。準備中もワイワイ会話をしながら交流。(写真はユウガオを調理している様子)



◀民泊はバス移動なのでご自宅の玄関で送り迎えします。短い時間であっても、こんなにも自然に心の交流が深まりました。

夏井町で教育旅行受入の新たな一歩 マルヒ製材～久慈市産木づかい体験～

現在、久慈市では、民泊体験の他に約30種類の体験プログラムを提供し、地域の方がインストラクターを務め、受け入れをしています。

しかしながら、高齢化等、様々な環境の変化により、現状を維持することも難しく、地域の方々や企業などのご協力が必要となっています。また、昨今、SDGs（持続可能な開発目標）に関する体験プログラムが注目されており、それに適したプログラム構築も急務となっています。

このような現状を踏まえ、市では新たな地域開拓の推進を検討をしていたところ、久慈市夏井町の有限会社マルヒ製材様（日當粕太郎社長）にご協力いただき、「久慈市産木づかい体験（ミニ住宅建築体験）」を開発。昨年11月22日にモニター体験会を実施しました。

モニター体験会には、夏井中学校2学年12人が参加し、生徒は久慈市産アカマツの丸太が、溝の入ったプレカット材に加工される様子など工場内を見学し、「かんなくずも牛舎の寝床に使うなど、木をすべて使いきることを常に考えている」などの説明を受けました。

見学後は、グループに分かれプレカット材を使い高さ約1.5mのミニ住宅をグループで協力し合い、組み立てる作業を体験しました。生徒からは「みんなで協力してできた。」「どうやって住宅が建てられているか分かった。」などの感想があがりました。

市では、これからも新たな教育旅行受入れ地域の開拓を推進していきたいと考えており、今後も色んな和が広がることを期待しています。



ご感想・お問い合わせ・プログラム体験お申込み

民泊・体験全般：一般社団法人久慈市ふるさと体験学習協会事務局

TEL 0194-75-3005

久慈市産業経済部商工観光課交流推進係

TEL 0194-52-2168

久慈市ふるさと体験学習協会の情報は、ホームページ・フェイスブックでも発信しています。他にもまだまだたくさんのプログラムをご紹介しているので、ぜひ一度のぞいてみてくださいね。

◇久慈市ふるさと体験学習協会 ホームページ

→ <http://www.kuji-taiken.jp/>

◇久慈市ふるさと体験学習協会 フェイスブックページ→「久慈市ふるさと体験学習協会」で検索！